

駒ヶ根市文化財

名称	美女ヶ森伝説
種別	民俗・芸能
所在地	赤穂市場割
所有者	大御食神社
説明	<p>大御食(おおみけ)神社には神代文字(じんだいもじ)と云われる特殊な字体で書かれた『社伝記(しゃでんき)』(成立年代不詳)がある。縦 30cm、横 20cm の桐板に墨書(ぼくしょ)されており、上冊が 9 枚綴(とじ)、下冊が 11 枚綴の 2 綴になっている。天明 2 年(1782)の火災で原本は焼失し、写本が辛うじて残ったという。明治 2 年(1869)伊那県庁を訪ずれた国学者、落合直澄が初めてこれを解読した。</p> <p>『社伝記』には、景行天皇 41 年から村上天皇の天暦(てんりやく)5 年(951)に至る、およそ 840 年間の社歴が記録されている。「日本武尊東夷(やまとたけるのみこと)といを討征し、帰路信濃に入り赤須の里に立ち寄った。</p> <p>里長赤須彦は御蔭杉(みかげすぎ)の下に仮宮を設けて尊をお迎えし、大御食(おおみけ)・大御酒(おおみき)を初め種々のご馳走をしてもてなした。尊はこれを賞して赤須彦に御食津彦(みけつひこ)の名を賜わった。赤須彦に少女が一人居て名を押姫と言った。尊は押姫を愛(め)でて三日逗留(とうりゅう)した。</p> <p>尊が休んだ時手を掛けた石を御手掛石(みてかけいし)、または盃を置かれたので皿(ひらか)石ともいう。同五十八年御食津彦は御蔭杉の樹下に神殿を建て、日本武尊を奉斎し大御食神社と称した。」</p> <p>応神天皇 8 年、尾張国より宮簀(みやず)姫(別に五郎姫(いついらつひめ))を奉迎して祭祀し、この地を美女ヶ森と称した。御蔭杉は神功皇后五年春三月、文徳(もんたく)天皇天安 2 年(858)春の二度植継いだという。</p> <p>以上が『社伝記』に伝えるところである。当神社に日本武尊の尊像と伝える総丈 33cm、ヒノキの寄木造の神像がある。衣冠束帯の立姿で、衣紋は白・赤・青色の泥絵具で彩られた素朴な木像である。</p>
	 <p>「社伝記」神代文字</p>
	 <p>御蔭杉</p>